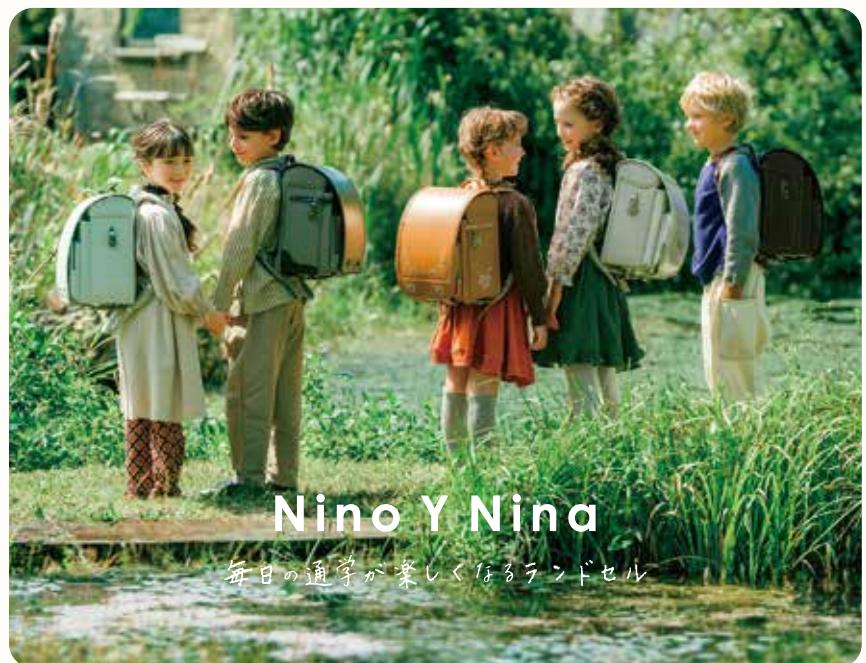


広告



Nino Y Nina

Nino Y Nina  
CHALLENGED PROJECT

-ニノニナチャレンジドプロジェクト-

今までランドセルを  
背負えなかったお子さまへ

チャレンジのお子さまがランドセルを選ぶ楽しさ、  
背負う楽しさを体験して頂けるようにと心を寄せて  
背負いやすいランドセルの企画を進めています。



詳しくはこちらから

Nino Y Nina

毎日の通学が楽しくなるランドセル

こどものときに感じたやさしさは、色あせない、たいせつな記憶。

これから大人になる子供たちが毎日使うものだから、長く使って愛着が増す感覚を自然に肌で感じてほしい。

ひとつのランドセルに、たくさんの職人の力が合わさっている。

日本のものづくりがたくさん詰まったランドセルは毎日の通学が楽しくなるランドセル。

ニノニナはじめての絵本プレゼントキャンペーン!



抽選で100名様に絵本をプレゼント!

ご応募の詳細はこちら

抽選100名様  
限定!

子育て制度の速報と解説を無料配信中！



LINE



TikTok



Youtube



普段、忙しくて制度をチェックする時間がない方、フォローしてね！

イクハク

イクハク



URL <https://www.ikuhaku.com/>

本冊子の作成  
について

本冊子は、大阪府と事業連携協定を締結しているイクハク様(※)と、上記広告主様のご協力により印刷いただいたものです。  
(※イクハクHP→<https://www.ikuhaku.com/>)

発行：大阪府立中央図書館

〒577-0011 東大阪市荒本北 1-2-1  
TEL:06-6745-0170 FAX:06-6745-0262

本冊子の発行元である大阪府立中央図書館は、こども資料室と国際児童文学館が協力して、子どもたちと本との出会いを応援しています。

●こども資料室

本の貸出から、おはなし会まで子どもへのサービスをしています。さわる絵本や点字絵本、外国語の絵本なども利用できます。



●国際児童文学館

明治から現在までの子どもの本を集めて、未来に伝えています。



協力：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団(IICLO)

IICLOは、子どもの本の研究等を行い、大阪の児童文化の振興に取組んでいる団体です。



動画でオススメ  
本の紹介を  
しています♪

令和6(2024)年4月改訂

大阪府

子どもと楽しむ

# はじめての絵本

絵本を選ぶための  
とっておきの  
アドバイス

あかちゃんには、いろいろなあそびが必要です。声をかけて、からだにふれていっしょにおもちゃであそび、そして絵本を見ながらおはなしもする。ここでは絵本をとりあげて、0・1・2歳児のための絵本の選び方や、まわりの大人的の接し方などを広く解説しました。紹介している絵本や説明はあくまでも参考です。子ども一人ひとりの興味や反応にあわせて、いっしょに絵本を楽しんでください。

大阪府立  
中央図書館  
絵本のリスト  
はこちら！



かたやまけん作『くまさん おつき』(福音館書店「こどものとも 0.1.2」2002年6月号) ©Ken Katayama 2002

## どうぶつ

### 『ねんね』

文：さえぐさ ひろこ  
出版社：アリス館

キツネ、ライオン、ゴリラ、シロクマ、コアラなど、いろいろなどうぶつたちが、きもちよさそうにねむっています。



### 『もうおきるかな?』

(0.1.2.えほん)  
文：まつのまさこ  
絵：やぶうちまさゆき  
出版社：福音館書店

どうぶつのかどもたちが、つぎつぎにめをさまし、おきあがります。



### 『ねえあそぼ』

文：まだみちお  
絵：ましませつこ  
出版社：こぐま社

おすもう、すべりだい、かくれんぼ。どうぶつのかどもたちが、それぞれいすきなあそびをたのします。



## せいかつ

### 『きゅっきゅつきゅつ』

(くつづあるけのほん)  
文：林明子  
出版社：福音館書店

おいしいスープがこぼれました。きゅつきゅつきゅつとふいてあげます。



### 『くらいくらい』

文：はせがわせつこ  
絵：やぎゅうげんいちろう  
出版社：福音館書店

くらーいなかに、くろいかけ。でんきをつけないと、ぱっことりのピーちゃんや、かえるのケロッパ、いぬのさぶちゃんたちがあらわれます。



### 『おはよう』

(あかちゃんのほん)  
作：まついのりこ  
出版社：偕成社

「おはよう」からはじまって、ごはんをたべて、いっぱいあそんで「おやすみなさい。」



### 『くつづいた』

作・絵：三浦太郎  
出版社：こぐま社

あひるさんはくちばしをくつつけ、おさるさんはてをつなぎ、わたしのかぞくはほっぺをくつつけます。



## のりもの

### 『ずかん・じどうしゃ』

(福音館の幼児絵本)  
作：山本忠敬  
出版社：福音館書店

スポーツカー、トラック、バス、はしごしゃ、パトロールカー、いろいろなくるまがせいぞろい。



### 『あっ!』

(はじめての絵本たいむ)  
文：中川ひろたか  
絵：柳原良平  
出版社：金の星社

あかちゃんがくるまや、でんしゃや、ふねや、ひこうきをみつけて「あっ!」とゆびさします。



### 『がたんごとん』

(福音館あかちゃんのえほん)  
作：安西水丸  
出版社：福音館書店

「のせてください」とコップやスプーン、リンゴやバナナ、ネコにネズミもやってきました。



## たべもの

### 『にんじん』

(いやだいやだの絵本)  
作・絵：せなけいこ  
出版社：福音館書店

「にんじんのすきなこだれ」  
うまやきりん、うさぎ、ぞうも、みんなやってきました。



### 『くだもの』

(福音館の幼児絵本)  
作：平山和子  
出版社：福音館書店

すいかをきて「さあどうぞ」  
もものかわをむいて「さあどうぞ」。



### 『りんご』

(母と子のえほん)  
文：松野正子  
絵：鎌田暢子  
出版社：童心社

あか、きいろ、ピンクのまるいりんごをむいて、きって、たべて「ああ おいしく」。



## あそび

### 『いないいないばあ』

(松谷みよ子あかちゃんの本)  
文：松谷みよ子  
絵：瀬川康男  
出版社：童心社

ねこ、くま、ねずみ、のんちゃんもみんな、「いないいないばあ」をしてあそびます。



### 『ぴょーん』

(はじめてのぼうけん1)  
作・絵：まつかおかたつひで  
出版社：ボブル社

かえるや、いぬや、ばったや、うさぎなどがページをめくると「ぴょーん」と飛び出します。



### 『ととけっこよがけた』

(まつかおかたつひで)  
案：こばやしえみこ  
絵：ましませつこ  
出版社：こぐま社

にわとりがひよこや、ねこや、ぶたや、うしゃ、こどもを「よがけた」とおこすわらべうたのえほん。

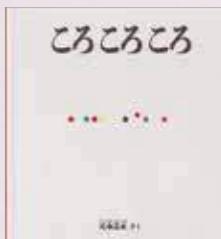


## いろ・かたち・おと

### 『ころころころ』

(幼児絵本シリーズ)  
作：元永定正  
出版社：福音館書店

ちいさなたまが、ころころころところがります。かいだんをころころ、でこぼこみちをころころ。



### 『じゃあじゃあびりびり』

(まついのりこのあかちゃんのほん)  
作・絵：まついのりこ  
出版社：偕成社

じどうしゃはぶーぶー、みずはじゃあじゃあ、かみはびりびり。いろいろなおとがきこえてきます。



Q どんな絵本を選んだらいいの？

A 1 内容と題材

子どもは動物や乗り物など子どもの身近なモノや、食べる・寝る・顔を洗う・遊ぶ・着替えるなどの動作、おでかけ・買い物・発見などの身近な出来事が取り上げられていると、よくわかるので喜びます。

Q 2 表現

絵+文章

なるべく実物に近い形で、子どもが普段見慣れた角度から、全体がわかるように描かれていると良いでしょう。

ただ、あまりに簡略化されたり、または細かすぎる絵では、特徴が捉えられません。あかちゃん対象の絵本は、文章のないものが多いですが、文章がある場合は、子どもがまねしやすく、大人が声に出して読みやすい、リズミカルな言葉や文章が良いでしょう。

Q 3 本の作り 扱いやすさ+安全性

子どもが扱いやすい大きさや重さであることも楽しめる要素です。まず、幼い子どもが持つたり抱えたりしやすい大きさで、めくるのにまみやすい厚さ、軽めの造り、ひっぱっても簡単にはやぶれない用紙が良いでしょう。本は何度も開閉するので、綴じの部分がしっかりしていることも必要です。

本を投げたり、振り回したりして、本のカドを自分自身にぶつけてケガをすることもあります。厚手の用紙、または布のように柔らかい用紙で、本のカドが丸く、汚れがふきとれるようにコーティングがしてあると安心です。

Q いっしょに絵本を楽しめるのはいつ？

A 生後4ヶ月位から少しづつ楽しめます。あかちゃんとの触れ合いに絵本でおはなしをしてみてください。じっと見つめてくるでしょう。絵本を見ながら話しかけ、あかちゃんとのひとときを楽しめませんか？

Q 子どもは絵本のどこを楽しむの？

A 1 モノ・場面と絵・言葉を結びつける

最初は、スプーン、コップなど、知っているモノを絵の中に見つけて喜びます。すこし言葉が話せるようになるとそのモノの名前を言ったり、実物を持ってきて「おんなんじ」というように、見比べたりもします。

2 自分であつかう

はじめのうちはペロペロなめたりかじったり、やがてページをめくる、ということを覚えます。絵を見て言葉を聞きながら、自分なりに色々と絵本を扱って喜びます。

3 いっしょの時間が楽しい

子どもにとって、絵本をなかだちにして自分だけの相手をしてもらえるのも嬉しいことです。大人の声かけに「オッ」とか「ウッ」とからだで反応してくるでしょう。大人は言葉を使い、子どもは声や表情・からだを使って心を通わせる、これが絵本の魅力の一つです。

Q 絵本にはどんな特徴があるの？

A 絵本の絵は実物そのものではありませんが、絵を見ながら「リンゴよ」などと言葉がかけられると、あかちゃんは実際のリンゴを想い起こします。想像力を育てるのに、絵本がひとつ助けてくれます。

Q こんなときはどうしたらいい？

A 1 読んでも反応がない

特別な興味がない限り、すぐに反応がない時もあります。あわてずゆっくり読みましょう。聞いていないようでも心にしみこんでいることもあります。一緒に絵本を楽しみましょう。

2 本を口に入れたり、ビリビリやぶる

大人の本の持ち方を見習って、だんだん本らしく扱えるようになります。子どもの様子に合わせて、口に入れたり破ったりしてはいけないことを優しく教えましょう。

3 どうやって読んだらよいかわからない

大切なのは、読む人がその絵本を好きになることです。読む人が「おもしろい」と思うと、自然に読み方やお話の仕方が上手になってきます。一字一句そのまま読まなくては、と気にする必要はありません。子どもの反応を見ながら読みましょう。まずは、絵本をなかだちにして、子どもとたくさんお話をしてください。